

## ひとりひとりの子どもを見つめて⑧

### 赤羽美代子

或る日、我が園の、日ごろの保育の流れの中で、流れを中断して始まる、昼食の時間帯を考えてみました。

六月も半ばになると、新入園児も園に慣れて、園内は大分、落ち着きを見せてくれます。午前中、たっぷり遊ぶ子。又、お弁当になる頃から、遊びが始まる子。と、さまざまです。

教師が「そろそろ、お食事ですよ」と知らせる声に「あー、お腹がすいた」と、自覚する子。又、「もう、片付けるの？」と、遊びに心を残す子。ともかく、昼食に入る時間はどの子どもも、遊びとの関わりが、容赦なく中断される。子どもたちは、教師側の、一方的な、リズムの流れに追われる如くに、片付ける・手を洗う・お弁当の準備へと、どの子どもも、一様に流されて行く。次には、全員集合をして、声を揃えて「いただきますー」と、食事が始まる。あまりにも能率よく訓練された状態である。

保育の流れを、ブツリと留めてから始められる、この食事前のひととき、子どもたちと片付けをしながら、私の心の中を、味けない、一すじの『透き間風』が、横ぎっていく。なぜか、子どもたちにとって、この上ない楽しいお弁当が、小さなお腹を満たしてくれる『餌』の時間のように思われてくる。

食事が『恵みの時』として、保育の流れの中で整えていかれないだろうか。子どもひとり、ひとりが、自発的に行動できる、保育の流れを考えたい。

久しき前から、私は心の中で幾つかの『夢』を生み、育てた。その、貧しく、乏しい『夢』が、ああか、こうかと、「枯れ野を駆け巡る」のである。

(意識の中で、風呂式包みにしておいた一つの『夢』を、披露させていただきます)

まず、子ども用の「食堂」(食堂専用)が、せひ、欲しい。天井の一部は、ガラス張りで食堂内は明るく、清潔です。カーテンで飾った窓辺には、花と緑を絶やさない。子ども用サイズのテーブルには、可愛らしい花模様のテーブル掛け。或る日は、ちょっと、きどって純白。テーブルの上には、その日のデザート、又は、香の物が四人分、お皿に盛ってある。

食堂が開く時間は、決まっている。食堂の入口には、お知らせの札が下がります。

(黄色の札ももうじき食堂が開きます)

(緑色の札ももうじき食堂が開きます)

(赤色の札ももうじき食堂が開きます)

子どもたちは、その、カラー札の色を見ながら、片付けを始めたり、友だちを誘ったりして、お弁当を持参して、食堂に行く。子どもたちも、時間帯に慣れてくると「〇ちゃん、片付けて食堂に行かない?」「今ね、食堂は混んでいるよ。もう少し遊ぼうよ」なんて、会話が聞こえてきそう。

食堂内は、食堂の規則を守らなければならない。

(大きな声で、お話をしない)

(静かに、歩く)

準備された、テーブル上のデザート、又は、香の物は、自分たちで、分かち合う。四人用のテーブルに、三人で着席した時は、後から来るお友だちの為に、残して上げましょう。

おや、まだ、遊んでいる子には、お友だちや、先生が「食堂に、赤色の札が、下がりますよ」と、助言をし、自主的な行動を促す。「僕、早く食べられるから、大丈夫だもん」なんて、

ちゃっかりと、時間の計算済みの子どもも、いるでしょうね。三歳児のちびちゃんが、いっしょのテーブルに着いた時、「お茶をついであげましょうね」と、年長児の、積極的な行動と、会話が、出そうな気がする。

以上が、私の貧しい「夢」の骨組みです。

先に記しましたように、我が園でも、建物の関係上、教師の合図で、一斉に片付けをし、保育室が、急ごしらえの食堂になります。先生方は、くふうを重ねて、楽しい雰囲気をつくり、配慮します。

しかし、これで良いのではなく、一方的に流されるこの時間が、子どもたちの、自主的な行動として、積極的に動けるよう、設備を整えていきたいものです。

しかし「夢」から醒めてみると、現実はいくつと、手足を引っこめずに、現状の中から出発して、限られている時間に追われつつ、子ども、ひとり、ひとり、お腹を満たす時間として流されぬよう、教師も、子どもたちも、思いきって、イメージの世界を広げてみては、いかがでしょうか。

そして、先生方、子どもたちの「夢」が、園いっばいに、駆け巡っては、いかがでしょう。(霊南坂幼稚園)